

話題提供

## 鉄板焼調理を通しての食文化への想い

一般社団法人日本鉄板協会 会長

土居 義雄

昭和 29 年から 49 年頃、高度経済成長期と言われた時期に幼少期を過ごした我々世代に当時の飲食物は本当に安心・安全なものばかりだったのでしょか。残留農薬や食品添加物の影響は無かったのでしょか。

激変する世の中の中の動きの中での、我々に知らされていなかった情報であった為に、子供を病気にさせてしまった事などをお話しさせて頂きたいと思います。

教育講演

## コロナ時代のトラベルクリニックはどうあるべきか？

静岡厚生病院 小児科/渡航ワクチン外来

田中 敏博

2013 年 12 月の渡航ワクチン外来の立ち上げより、患者数とワクチン接種本数は年々右肩上がり増加していました。2019 年末、原因不明のウイルス感染症が現れたとの第一報から、それが新型コロナウイルスによるものと判明して世界的な流行に至った 2020 年の春先以降、海外渡航を目的とした患者の受診がピタリとなくなったことは至極当然でした。初夏を迎える頃、その様相が一変しました。流行語にもなった「PCR 検査」とその「陰性証明」を求めて、日本を脱出する主に外国人が次々と受診されるようになったのです。現在、「脱出」から従来の受診の中心であった“赴任”へ、患者の渡航目的は回復しつつあるものの、依然として PCR 検査/陰性証明のニーズが維持される一方で、「安全と健康をサポートする」という、トラベルクリニックとしての手ごたえが希薄な毎日を送っています。

コロナの時代はしばらく続きそうです。今、トラベルクリニックはどうあるべきなのでしょうか？

特別講演

## 製薬会社の社長がコロナに罹り、それを積極的に公表するのは何故か？

株式会社ノーベルファーマ 代表取締役社長

塩村 仁

ノーベルファーマは、「必要なのに顧みられない医薬品・医療機器の提供を通して、社会に貢献する」を会社使命・ミッションとして 2003 年に設立された。その背景として、製薬企業の多くが糖尿病など生活習慣病を主なターゲットに、売上の増大を目指し、希少疾患や小児・婦人科疾患に対しては、“後回し”になっていたことがあった。

会社ミッション実現のため、最初に以下の経営方針を策定した。

1. 法令・倫理を守ることを優先して業務を行い、会社への忠誠心を道理に優先させない
2. すべての関係者（従業員、株主、役員）が会社使命、経営方針、行動基準を共有する
3. 進化を求めが、規模拡大が目的ではない
4. 情報公開と透明性確保に努める
5. 五大州に雄飛する

設立後 18 年間で 16 品目の新医薬品（うち 1 品目は医療機器）を上市できた。うち 10 品目はオーファン指定品である。ノベルジンやホストインなど当社薬剤の添付文書を見ていただければ当社の小児科に対する思い入れがおわかりいただけると思う。

気を付けてはいたつもりでも油断があったと自省するが、2020 年 12 月に COVID-19 に罹患した。その顛末、抗体の推移などを紹介する。社内外で積極的に情報公開する理由には上記経営方針もある。

## 海外在住する日本人関係者の健康管理

JICA-国際協力機構 元海外シニアボランティア、在外健康管理員

岡崎 由起子

近年、国内の多くの企業が海外に社員を派遣している。最近の動向としては、中国や東南アジアなど途上国に滞在する勤務者や中小企業からの勤務者が増加している。こうした状況から、海外勤務者の健康管理は重要性を増している。

JICA（独立行政法人国際協力機構）は、開発途上国支援のため、平時、約10,000人の関係者を在外へ派遣している。そのため、派遣者の健康管理を組織的な健康管理体制をとり、一貫した健康管理支援を行っている。

2003年～2021年までの間、JICA海外シニアボランティアを経てミクロネシア、ジャマイカ、ケニア、ラオスにおいて海外での健康管理業務を経験した。今回は、直近の勤務地であるラオスでの経験を中心に実際の海外勤務者の健康管理-海外での健康管理体制、健康リスク因子、重症者の緊急移送、海外医療事情、今後の課題等をお伝えしたい。また、新型コロナウイルス感染症対応についても触れたいと思う。

今後、海外渡航業務に携わる医療関係者の皆様、また、海外勤務（在住）される皆様の健康管理のお役に少しでも立てれば幸いです。

## フィリピンのスラム街より

トラベルフォトグラファー

山田 誠司

フィリピンのスラム街ではどんな生活をしているのだろうか。ここで言うスラム街とは、フィリピンの首都マニラの沿岸部にある不法滞在者たちが住む地域を指す。一般的に外国人から見ると貧困で治安が悪い地域とされているが、そこでの実際の暮らしは日本に住む私たちの生活と似たような居住区と社会があった。撮影禁止区域になっており、外部の旅行者には広くは知られていない部分を、当地区に自ら入りカメラで記録した様子を写真でお伝えする。

複数回訪れた結果、人々の暮らし、職業、食生活、大人と子供の日常がわかってきた。貧困ではあるが、彼らには被害者意識や憐みを請うのではない逞しさを感じた。そして、政府の政策によりスラムが変わり続けていること、また彼らが当たり前としている生活環境は衛生的ではなく、私たちが目を疑うような環境下にあることもわかった。

現在、誰もが簡単に情報を入手、拡散出来るような時代になったが、一面から見て判断、理解するのではなく、側面や複数の情報源から正しい事実を理解することが大切だとわかった。また彼らが衛生面で問題なく暮らしているのを真に受けるのではなく、衛生面に限っては非日常と捉え、海外で安全で健康に過ごせる準備をしておくことが肝要である。

今後も変わりゆく彼らの生活を見守り、心ばかりの支援を続けていきたい。

## 《展示協賛》

キリンホールディングス（株） （株）テクノスルガラボ （株）大塚製薬工場